

第 6 回 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	平成 26 年 12 月 9 日（火）13 時 00 分～17 時 00 分
開 催 場 所	中区生活支援センター 相談室、地域活動ホームあおぞら 地域交流室
出 席 者	伊東委員、武津委員、霜島委員、大門委員、西村委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴者 0 人） ※議題 4 は非公開
議 題	1 指定管理者の自己評価の提出 2 事務局による評価案の提出 3 指定管理者への意見聴取 4 評価の審議
決 定 事 項	なし
議 事	1 指定管理者の自己評価の提出 指定管理者より、自己評価を書面にて提出。 2 事務局による評価案の提出 事務局より、事務局による評価案について説明 3 指定管理者への意見聴取 委員より、指定管理者へ意見聴取 4 評価の審議 【主な質疑内容】 <u>議題 3 指定管理者への意見聴取</u> ☐ 緑区生活支援センター 委員：宿泊支援事業について、効果はあるか。 指定管理者：あると思う。入院している方に「どんな生活をしたいか」希望を聞いた時に、イメージすることができない方が多くいる。今後をイメージするきっかけとして、貴重な体験になっていると思う。病院での生活と一般の生活の違いが分らない方も多くおり、知る機会にもなっている。 委員：職員体制に係る課題解決のために取り組んでいることはあるか。 指定管理者：相談に重点を置くために、業務のスリム化、プログラム、イベントの見直しを図っている。 委員：苦情の件数はどうか。 指定管理者：苦情解決として、第三者委員まで相談に至った件は開所して 1 件のみ。その他小さな苦情、意見は緊急のものは適時職員が対応し、その他は職員会議を経て回答している。 委員：嘱託医に関する自己評価が B である理由はなにか。 指定管理者：嘱託医が見つからず、相談の規定回数を満たしていない。緑区の医師を探していたが見つからず、今月より法人の病院から医師の派遣を受

	け、規定数を満たせるように嘱託医を配置した。 委員：法人全体での研修はあるか。 指定管理者：紫雲会と社会福祉法人光風会の合同で研修会を年2回行っている。 ケース検討会や知的障害に関する研修を行っている。 委員：就労支援はどのように考えているか。 指定管理者：大きな課題と感じている。その人に合わせたステップを踏み、より良い形へ目指していきたいと思っている。 □中区生活支援センター 委員：電話相談について、習慣的に電話をかけてくる方にはどのような対応をしているか。 指定管理者：特別に時間を決めるのではなく、自然の流れで対応している。 委員：三障害一体の建物だが、利用者から不満がでたりはしていないか。 指定管理者：お昼は支援センターの隣の食堂を知的障害の方が多く使われるので大きな声が聞こえることが多々あるが、利用者からはそういったことでの不満は聞いたことがない。“三障害一体”をコンセプトとしており、利用者へも周知されていると思う。 委員：利用制限をしたケースはどのくらいあるか。 指定管理者：2件あった。 委員：自主サークルがあるが、これは利用者が主体的に活動しているものか。 指定管理者：基本は利用者主体で動き、本人の自主性を尊重し、メンバーが集まり、定着するまでは職員が支援している。実際集まってみて、意見がすれ違い解散することもあるが、それも一つの経験となるので、職員は見守りながら利用者に任せている。 委員：嘱託医の相談に関して、評価がBである理由と今後の方向はどのようなのか。 指定管理者：嘱託医は需要があれば医師を増員する予定があったが、予約も入らない日もあり、現状は2名で様子を見ている。今後需要が増えるようならば、1名増やすべきなのではと思う。 委員：今後の方針や改善していこうと考えている点はあるか。 指定管理者：区福祉保健センターと支援センターに加え、ケアプラザなど地域との連携が強い地区。寿町のケアプラザ、福祉プラザと連携し寿町への訪問などのアウトリーチを強化していこうと思う。 以上
資 料 ・ 特 記 事 項	1 資料 (1) 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会委員名簿 (2) 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会運営要綱 (3) 第2回～6回選定評価委員会の評価の流れ (4) 横浜市中区精神障害者生活支援センター評価シート（案）

	(5) 横浜市緑区精神障害者生活支援センター評価シート (案) 2 特記事項
--	---